

令和7年度 県立八千代高等学校自己評価表

<p>目指す学校像</p>	<p>総合学科の理念を活かし、一人一人の個性の伸長を図るとともに、生涯学習の礎となる知・徳・体を確立させ、時代の変化に応じて、創造的にキャリアを形成しながら社会に貢献できる人材を育成する。生徒に必要な力を5C=5つのChikaraとして捉え、教育活動のあらゆる場面でChallenge（挑戦する力）、Choice（選択する力）、Change（変化させる力）、Communication（つながる力）、Career（自分の未来を切り拓く力）を育てる。</p> <p>(1) 授業改善の取組を推進し、基礎学力の定着、学習意欲の向上を図るとともに、「教える」授業から「学ぶ」授業への転換により、自ら学び自ら考える力を育成する学校</p> <p>(2) 基本的生活習慣の確立を図るとともに、道徳教育・特別活動や自然体験等とおして、規範意識や豊かな人間性を育成する学校</p> <p>(3) 部活動の活性化、ボランティアなど協力しあう経験により、健やかな心身を育成する学校</p> <p>(4) 系列での学習を活かしながら、生徒一人ひとりの進路希望の実現を目指すとともに望ましい勤労観・職業観を育成する学校</p> <p>(5) 「開かれた学校」を目指し、保護者・地域社会・異校種学校等と連携・協働しながら、教育活動の改善・充実を図り、郷土に対する愛情と協力しあう心を育てる学校</p> <p>(6) 「働き方改革」を念頭に、常に業務改善を図るとともに、ワークライフバランスのとれた信頼される教職員の育成を目指す学校</p>		
<p>三つの方針</p>	<p>具体的目標</p>		
<p>「三つの方針」 (スクール・ポリシー)</p>	<p>「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)</p>	<p>(長期的目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時代の変化に応じて創造的にキャリアを形成しながら社会に貢献できる人材 ・規範意識と豊かな人間性を身に付け、健やかな心身と他者への思いやりを持った人材 ・郷土に対する誇りや周りの環境に愛着をもち、地域社会の未来を牽引できる人材 	
<p>「三つの方針」 (スクール・ポリシー)</p>	<p>「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)</p>	<p>(中期的目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合学科の理念の下、生徒の多様な学習ニーズに対応した普通教科と専門教科の履修機会の提供 ・生徒一人一人の進路希望を実現させる、確かな知識・技能、より高度な思考力・判断力・表現力を育む授業・実習の実施 ・教育課程全般を通して、課題を発見し、仮説を立て取り組み、まとめ・表現し、次の「探究」サイクルへと繋げる学びをデザイン 	
<p>「三つの方針」 (スクール・ポリシー)</p>	<p>「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)</p>	<p>(短期的目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な分野に興味関心を持つとともに、自己の専門をより深く探究しようという意欲のある生徒 ・自己の将来を見据え、進路実現に向け日々努力することができる生徒 ・倫理観や規範意識があり、学校生活に積極的に関わる意志のある生徒 	
<p>昨年度の成果と課題</p>	<p>重点項目</p>	<p>重点目標</p>	<p>達成状況</p>
<p>総合学科の特長を活かし“個性をみがき 夢をかたちに”をモットーに「一人ひとりの個性を活かす教育」を推進している。5つの系列（文理総合、基礎教養、自動車・電機、商業実務、福祉・家庭）を編成後10年が経過し、成果の検証とさらなる教育内容の充実を図る時期を迎えている。また、生徒に必要な力を5C=5つのChikaraとして捉え、教育活動のあらゆる場面でChallenge（挑戦する力）、Choice（選択する力）、Change（変化させる力）、Communication（つながる力）、Career（自分の未来を切り拓く力）を育てるための取組を充実させたい。</p> <p>令和6年度は、学習指導の重点目標として、①学びの基礎診断、②生徒による授業評価における授業満足度、③教員によるICT活用状況、の3点についてKPIを</p>	<p>1 基礎学力の定着、学習意欲の向上、自ら学び考える力の育成、授業改善の推進</p>	<p>① 「授業が一番」とし、「チャイム始業」を徹底して1分1秒を大切に授業を展開するとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実践を図る。授業改善推進チームを中心に、相互授業参観や異校種授業見学等を利用して、指導方法の工夫・改善に努める。</p> <p>② 「何を知っているか」だけでなく「何ができるか」を重視し、「わかる授業」を実践し基礎学力の定着を図る。「自分の考えを書いてまとめ、発表する」、「他者に説明する」等の言語活動の充実とおして、自己表現能力の育成に努める。</p> <p>③ 課外授業や各種検定・資格試験、模擬試験、各種大会やコンクール等への参加等を効果的に取り入れ、発展的な学習の機会を確保するとともに、多様な進路希望に対応できる学力の養成を図る。</p> <p>④ 予習・復習や課題等に取り組むための個別最適な方を講じて家庭学習を習慣化し、基礎学力および学習意欲の向上を図る。</p> <p>⑤ 「主体的・対話的で深い学び」の実現のためにICTを活用し効果的な指導の工夫に努める。</p> <p>⑥ 生徒による授業評価における、授業満足度の評価平均3.5以上を目指し、授業評価をうけた授業改善を実践する。</p>	<p>B</p>

別紙様式2 (高)

<p>示して取り組んだ。授業改善推進チームを中心とした取り組みとして、異校種授業参観や、校内相互授業参観、先進校視察、新たな教育プラットフォームの導入の研修会等を行った。そのような活動を通して、各教員の授業改善に対する意識が向上し、②③の達成へとつながったと考えられる。一方で、①の達成のためには、学びの基礎診断と日頃の授業や課題等を関連付けた指導が求められる。</p> <p>全般的に生活態度は落ち着いているが、交通関係で規則違反をする生徒が多い。また、安全意識が希薄なため交通違反や交通事故も複数あり、自転車・バイク通学者に対する運転意識・実技両面での指導の徹底が必要である。キャリア教育の一環として、挨拶や場に応じた服装・言葉遣い・礼儀作法を順守させる指導が求められる。さらに、服装・容姿等のマナーアップや生活指導両面での指導の徹底が求められる。</p>	<p>2 基本的な生活習慣の確立、規範意識や豊かな人間性の育成</p>	<p>⑦ 全職員の共通理解に基づいた服装容儀指導を実施するとともに、挨拶・正しい言葉遣い・礼儀作法の指導等、基本的な生活習慣の確立に努める。</p> <p>⑧ 道徳教育や特別活動、自然体験や読書活動等とおして、自他を尊重する心、奉仕する心、感動する心等の豊かな心を育成する。</p> <p>⑨ LHR や特別活動、道徳教育等とおして社会規範や校則を遵守する意識を培い、校則違反者の減少に努める。</p> <p>⑩ 特別活動や講話等とおして、危機管理（交通マナー・インターネットマナー・防犯等）に対する意識の醸成と危機回避能力の育成を図る。</p> <p>⑪ 個に応じた指導を充実させるため、個別面談や職員間での情報共有を適切に行い、必要に応じて外部機関とも連携してより効果的なチーム指導を推進する。</p>	<p>A</p>
<p>特別活動においては、昨年度文化祭でのeスポーツ大会開催やキャッシュレス決済の導入など、時代の変化に合わせて積極的に挑戦した一年となった。今年度も生徒を中心に充実した学校行事を目指していく。各部の活動は活発であり、関東大会や全国大会等の上位大会に出場する部活動も多い。4月時点では、多くの新入生が部活動に参加している状況である。さらなる部活動の魅力向上に向けて、学校全体で指導方法の工夫・改善に取り組んでいきたい。</p>	<p>3 特別活動や部活動の活性化をととした健全な心身の育成</p>	<p>⑫ LHR 等における指導内容を工夫・改善し、年間計画に基づいたより効果的なホームルーム活動を推進する。</p> <p>⑬ 生徒の自主的・自発的な活動を推進し、生徒会活動の活性化を図る。</p> <p>⑭ 文化祭や体育祭等の学校行事とおして、協力しあう心や責任感を育む。</p> <p>⑮ 部活動の指導においては、心身の発達に応じた科学的な手法を取り入れながら工夫・改善するとともに、発表する場や練習試合等とおして実践的な力を向上させ、生徒の健全な心身の成長を図る。</p>	<p>A</p>
<p>令和6年度における進路先内訳を割合で表示すると昨年度と比較して、大学・短大進学が26.4%で8.6%増、専門学校進学が35.27%で4.5%減、就職36.8%で4.0%減であった。大学・短大進学への割合が大幅に増えた。就職求人件数は1232社であり昨年度より若干増加した。本校における就職内定率は、過去十数年以上100%を維持している。国公立大学については昨年連続で都留文科大学に合格者を出した。</p>	<p>4 進路希望の実現、望ましい勤労観・職業観の育成</p>	<p>⑯ 3年間を見通したキャリア教育計画の下に、個別面談等によるキャリアガイダンスを充実させて早期から進路意識の醸成を図るとともに、生徒一人ひとりの能力や適性に基づいた、計画的な進路指導を実践する。</p> <p>⑰ 系列での学習を活かしながら、進学指導の充実と就職内定率100%を目指し、個に応じたきめ細かな進路指導を推進する。</p> <p>⑱ 外部講師による講演会や企業・学校見学、実習等とおして、望ましい勤労観・職業観の育成を図る。</p> <p>⑲ 礼法指導や小論文・面接指導、資格取得等を活かして、進路決定率の向上を図る。</p>	<p>A</p>
<p>令和6年度における進路先内訳を割合で表示すると昨年度と比較して、大学・短大進学が26.4%で8.6%増、専門学校進学が35.27%で4.5%減、就職36.8%で4.0%減であった。大学・短大進学への割合が大幅に増えた。就職求人件数は1232社であり昨年度より若干増加した。本校における就職内定率は、過去十数年以上100%を維持している。国公立大学については昨年連続で都留文科大学に合格者を出した。</p> <p>緊急情報メールや学校ホームページの適切な利活用により、開かれた学校づくりを目指し、地域における信頼ある学校としての地位を更に確立し、広報紙や在校生による学校案内を積極的に行い、志願者の確保にも努めたい。</p>	<p>5 保護者や地域社会等との連携・協働</p>	<p>⑳ ホームページや広報誌、学校紹介ビデオ、在校生による学校説明等とおして、学校の情報を積極的に発信するとともに、保護者や地域社会からの要望や提言を検討し、学校教育の改善・充実に活かす。</p> <p>㉑ 中学校などの異校種学校等への訪問を効果的に実施し、情報や意見の交換とおして連携を密にし、地域社会から信頼される学校を目指す。</p> <p>㉒ ボランティア活動や部活動、探究的な学び等で、地域社会の行事に積極的に参加し、交流を深めるとともに、地域社会との連携・協働を推進する。</p>	<p>A</p>
<p>また、令和6年度の時間外在校等時間における月平均時間は23時間25分、月平均45時間超過者割合は5.8%、月平均80時間超過者割合は0.2%であった。</p>	<p>6 業務改善と働き方改革の実現、ワークライフバランスの達成</p>	<p>㉓ 外部専門家の活用、学校行事の精選、文書事務の簡略化、完全退勤時間および定時退勤日（週1回、月6回程度）の設定など業務の改善に取り組み、職場環境の向上を図るとともに勤務時間の短縮を推進し、心身ともに健康なワークライフバランスのとれた信頼される教職員の育成を推進する。</p> <p>㉔ 生徒、保護者、地域から信頼される教職員として服務規律を遵守する。</p>	<p>B</p>

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教務部	多様な生徒に対応し、授業改善を通して基礎学力の定着と学力向上を図る。	適正な授業時間の確保に努め、チャイム始業を励行する。 ①	A	B	今年度の授業満足度の学校評価平均は3.55であり目標を達成できたが、教科の枠を超えた授業改善の工夫の共有や、指導と評価の一体化に向けた研修をさらに行っていくことが求められる。
		授業改善推進チームを中心に指導方法の工夫・改善に努め、生徒による授業評価における、授業満足度の評価平均3.5以上を目指す。 ①②④⑤⑥	A		
		シラバスの作成にあたり、評価基準の更なる適正化と観点別学習評価の一層の充実を図り、指導と評価の一体化を推進する。 ②③④	B		
		生徒の学習状況及び出席状況に関する情報の共有を徹底し、時期に応じた指導の構築を図る。 ①⑪⑬	B		
	総合学科としての教育活動の充実・発展を図る。	各種調査・統計・アンケートを実施し、生徒の実態・変容を把握し、次の目標設定に資するよう情報提供に努める。 ③④⑬	B	A	各系列の特色ある授業を展開できてはいるが、選択科目の在り方や今後の教育課程の検討のために、生徒の実態や目指すべき生徒像について各系列や教科との意見交換を行う。
		各系列・年次の学習活動が円滑に進むよう、総合学科特有のきめ細かな運営が必要とされる時間割編成、定期考査、教科書選定、授業変更等の事務作業を適切に行う。 ③⑪⑬⑭	A		
		各系列・教科と連携し、生徒の実態や多様な進路実現に対応した適切な教育課程を検討する。 ⑬⑭	B		
	広報活動を充実させる。	各種検定・資格取得を励行し、表彰式をとおして顕彰に努める。また、増単位認定に係る事務手続きを確実かつ迅速に行うための年次・教科の連携を促進する。 ③④⑬	A	A	学校広報のさらなる充実のため、公開授業の頻度や範囲の拡大や、オープンスクールで体験できる模擬授業数などについて継続して検討する。
		魅力的な学校案内パンフレットを作成し、中学校訪問及び学校説明会等で活用する。 ⑳㉑	A		
		年2回のオープンスクールデー及び学校公開を充実させる。 ⑳㉑	A		
ワークライフバランスのとれた職場環境を実現する。	教育活動の円滑な運営と広報のため、HPの更新頻度や連絡メールの配信頻度を上げて各部・年次・系列などの必要な情報を適正に発信する。 ㉒	A	A	校務DXを推進し、業務時間内での効率的な働き方を目指す。	
	ICTを活用したペーパーレス化を推進し、文書事務の簡略化に努める。 ㉓	A			
生徒支援部	生徒一人ひとりの社会的な資質を育み、基本的な生活習慣を確立し、規範意識を育てる。	完全退勤時間および定時退勤日を設定する。 ㉓	B	B	各年次や各担任で指導に差が生じてしまう。個別の指導も必要だが、統一された指導を各年次、担任で再度情報共有する必要があると感じる。
		服装頭髪指導及び挨拶指導の徹底を図る。 ㉗	B		
	問題行動の未然防止・早期発見を図る。	欠席・遅刻・早退に対する個別指導の徹底を図る。 ㉗	B	B	昨年度よりも問題行動の発件数は減少したが、引き続き注視していきたい。
		被害調査・個別面接等を適宜実施する。 ⑧⑨⑩	A		
		巡回・通学指導を計画的に実施する。 ⑧⑨⑩	B		
	生徒指導の実施により、充実した学校生活を送れるよう環境作りに努める。	貴重品袋の活用や施錠の励行などにより、盗難防止対策の徹底を図る。 ⑧⑨⑩	B	A	各年次、担任の先生方の指導により、適切な生徒支援が行われている。
		生徒への適切な説明を行いながら、手順に沿った生徒指導を実施する。 ⑧⑨⑩	A		
		問題行動に対する迅速な対応に努める。 ⑧⑨⑩	A		
	交通安全指導の徹底により、安全意識の高揚及び事故の未然防止を図る。	学校行事や特別活動がスムーズに行えるよう警備面でのサポートに努める。 ⑧⑨⑩	A	B	生徒への自転車・バイク運転の無事故・無違反の指導を徹底していきたい。
		自転車・バイク点検および交通安全指導の適正化を図る。 ⑨⑩⑪	B		
二輪車安全運転実技講習会等への参加を徹底し、安全運転の意識を高める。 ⑨⑩⑪		A			
ワークライフバランスのとれた職場環境を実現する。	普通車免許の取得に関する注意喚起に努めるとともに、安全講習を実施する。 ⑨⑩⑪	B	A		
	完全退勤時間および定時退勤日を設定する。 ㉓	A			

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
進路指導部	希望進路実現のため、工夫したキャリア教育を展開する。	就職内定率 100%堅持を目標に、キャリア教育を促進させる。また進路実現のために必要な能力を育成する。 ③④⑬	B	B	入社試験での筆記試験でやや苦戦したことからの基礎学力の向上を目指す。
	生徒・保護者に対する有益な進路情報を提供する。	進路室の資料等の整理に努力し、それらの資料を生徒及び保護者が閲覧し易いように務める。 ⑮⑯	A	A	一昨年からグーグルドライブやクラッシー等での求人票の閲覧方式を採用しているので、次年度も継続する。
	地域や進路先との関係を大切にす。	地域の経済状況をよく観察し、求人企業や上級学校の情報等をきめ細やかに収集することで、効果的な進路指導を目指す。 ⑯⑰	A	A	企業との懇談会が多いのですが、有益な情報が得られるため、継続していきたい。
	他分掌との連携をしながら生徒の成長を支援する。	他分掌と協力しながら、より良い進路決定ができるように努める。 ⑨⑯⑰	B	B	面接練習時の指導者割り振を工夫し、いろいろな先生方からの協力をいただきたい。
保健厚生部	安全・衛生管理に注意し学習環境を整える。感染症対策を全校生徒・全職員に周知・徹底させる。	「学校保健計画」を基に、適切な実施・運営に努める。 ⑰	B	A	学校保健計画を定期的に閲覧し、校務を遂行する。
		保健室の円滑な運営と管理に努める。休憩室の設置。 ⑰	A		
		各種検診・身体測定を円滑に実施し、適切な事後処理に努める。また、データの処理及び管理を適正に行う。 ⑰	A		
		校内の環境・安全・健康管理に関する情報の周知に努めるとともに、緊急時は適切な対応をとる。手洗い・うがい・アルコール消毒の励行。3密(密閉・密集・密接)を防ぐ。 ⑰	A		
		パン販売・自動販売機の品目の検討を進めると共に、販売内容の充実と改善に努める。 ⑰	A		
	生徒の自己管理能力を養い、自律的な生徒の育成を目指す。	保健学習・指導を通して、健康管理の意識高揚を図る。 ⑦	B	A	学校行事と教科「保健」の連携を図る。
		個別面談・カウンセリングをとおして自己を客観的に捉えさせ、その行動変容を促す。 ⑥⑦	A		
	特別な支援を必要とする生徒への支援体制を整える。	フォローアップ委員会の効果的な活用と機能の充実を図り、年次・関係職員・保護者との連携を図りながら支援に努める。 ⑨	A	A	特別支援教育の職員への啓発を図る。
		講演会や研修会を通して、特別支援教育の啓発や教育相談の利活用の促進に努める。 ⑰	B		
		学校医(精神科医)、スクールカウンセラー、その他外部諸機関との連携により、支援を必要とする生徒の早期発見と適切な対応に努める。 ⑨	A		
防火防災意識の向上	学校防災計画・学校緊急対応マニュアルを作成し、防火防災に対する意識向上を図るために防災訓練を実施する。 ⑨	A	A	地域住民と連携した防災訓練を実施する。	
	学校防災連絡会議を行い、地域と連携した避難訓練をとおして生徒と地域住民の実践的な態度を育成する。 ⑳	B			
	ストーブや灯油の安全な取扱を徹底させる。 ⑨	A			
環境美化意識の向上	日常的な声かけをとおして自発的な環境美化意識の向上を図る。 ⑦	B	B	生徒自ら環境美化に努める意識の向上を図る	
	清掃用具の点検・整備を行い、校舎内外の整頓・美化に努める。 ⑦	B			
	カーテンのクリーニングとワックス塗布を実施する。 ⑦	A			
	清掃用具やモップ交換を自主的に実施できるよう、その方法改善に努める。 ⑦⑧	B			
	生徒が花壇への植栽活動を主体的に行うことができるよう支援を強めていく。 ⑦	B			
ワークライフバランスのとれた職場環境を実現する。	学校行事の精選を行い、業務量の調整とともに教育活動の質の向上を図る。 ㉓	B	B	退勤に関して職員への呼びかけを行う。	
	完全退勤時間および定時退勤日を設定する。 ㉓	B			

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
特別活動部	豊かな心を育成・推進する。	豊かな心推進委員会や年次との連携を図り、担任のLHR支援を行う。 ⑪	C	B	年次とのさらなる連携を図り、LHR支援をおこなう。
		教員研修会や道徳授業参観をとおして、道徳やLHRの支援を行う。 ⑪	B		
	生徒会活動を中心とした学校づくりを行う。	教員と生徒会役員・HR役員が連携し、学校行事やHR活動を計画的に進める。 ⑪⑬	A	A	生徒会を中心に生徒の意見を各行事に反映させていく。
		学校行事やHR活動をとおして生徒理解に努め、リーダーの育成を図る。 ⑫⑬	B		
	生徒と教員が協力し学校行事を成功させる。	充実した学校行事を実施するため、生徒と教員が内容や方法の改善に向けて創意・工夫を凝らし、その成功に努める。生徒による評価アンケート3.5以上を目指した学校行事の充実を図る。 ⑫⑬	A	A	生徒・教員のコミュニケーションの充実、夏の気候に十分配慮し、適切な野球応援の実施方法を再検討していく。
		野球応援の伝統を守り、学校全体で積極的に取り組む。 ⑪⑬	B		
	部活動の活性化を推進する。	自主的・積極的に部活動に参加する態度を育てる。 ⑫	A	B	生徒の主体的取り組み、専門知識の研修会等を実施し、活動内容の充実を図る。
		各部活動の部長を通じて、主体的な部活動実施の指導を行う。 ⑫	B		
		指導内容に科学的な手法を取り入れ、競技力の向上につとめる。 ⑭	B		
		体験入部制を実施し部活動加入率の向上と退部生徒の減少を図り、活性化に取り組む。 ⑭	A		
	ボランティア活動を積極的に行う。	特別支援学校や地域で行われるボランティア活動に積極的に参加し、交流を深める。 ⑳	B	B	地域との連携により、活動機会を広げていきたい。
		生徒会とともにワクチン接種のためのキャップ集め運動等を積極的に行う。 ㉑	A		
	広報活動を積極的に行う	学校ホームページ内の各部活動の内容を定期的に更新し、部活動の魅力発信に努める。 ⑲⑳	A	A	今年度同様、速やかな更新に努めていきたい。
	ワークライフバランスのとれた職場環境を実現する。	学校行事の精選や、学校行事ごとの書類整理等により業務を効率化し、業務負担の軽減に努める。 ㉒	A	A	状況に応じて行事の精選等、継続しておこなっていく。
部活動の休日の確保、科学的指導による活動時間の短縮により、部活動顧問の負担軽減を図る。 ㉒		B			

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
図書部	図書館内の環境整備を行い、図書室利用を促進する。	書架の増設や配架位置を適切に行い、利用しやすい環境作りに取り組む。また、古い書籍・資料の除籍を進め、適切な環境の維持に努める。⑧	A	A	図書館周辺の環境を整え、生徒の読書への興味関心を促す。
		最新の書籍・資料を揃え、情報センターとしての機能を高める。⑧	B		
		教科と連携して書籍・資料を購入し、併せて授業利用に即した環境作りに努める。①⑧	B		
		図書館を利用する生徒のマナーアップに努め、一層の有効利用を促す。⑦⑧⑨	A		
		委員会活動を活発化させて各種図書館行事を行い、Web ページ等をとおして情報発信に努める。⑧⑬⑱	B		
	図書館報「あすなる」や年2回の「八千代 INDEX」を発行し、図書紹介の企画を定期的に行うなど、生徒の読書への興味関心を喚起する。⑳	A			
	視聴覚機器・資料の有効活用と管理を充実させる。図書館内の環境整備を行い、図書室利用を促進する。	教科学習や進路学習に関する最新の視聴覚資料を揃え、管理や貸出しを有効に行う。⑦⑬	B	B	更に古い書籍・資料の除籍を進め、より良い環境にし、生徒の探究心につながるようにする。
		視聴覚機器の準備・操作などを積極的に行い、視聴覚委員の活動を活性化させる。⑬	B		
		書架の増設や配架位置を適切に行い、利用しやすい環境作りに取り組む。また、古い書籍・資料の除籍を進め、適切な環境の維持に努める。⑧	B		
	ワークライフバランスのとれた職場環境を実現する。	業務量の調整とともに教育活動の質の向上を図る。㉓	A	A	引き続き、図書館の開館時間の精選を行っていきたい。
図書館の開館時間を精選し、定時退勤時間及び退勤日を設定する。㉓㉔		A			
情報管理部	情報機器等の管理運営を行う。	現在そして今後の情報機器の適切な配置を考え、教育環境の充実を図る。①	B	A	
		適切な教育情報ネットワークの管理を行う。①③	A		
		「茨城県立八千代高等学校情報セキュリティ実施手順を定める要項」等に沿って、適切に処理する。⑨⑩	A		
		緊急配信メールの管理等を行う。㉑	A		
	情報スキルアップのための研修を企画する。	業務内容の改善および業務効率の向上を目的とした教職員研修を企画・実施する。①③	A	A	
		校内サーバの管理・各種機器の貸し出しなどを行い、適切な利用を呼びかける。①③	A		
ワークライフバランスのとれた職場環境を実現する。	ワークフローを活用したペーパーレス化を推進し、文書事務の簡略化に努める。㉓	A	A	効率的な業務を模索する	
	業務内容の精選を行い、業務量の調整とともに教育活動の質の向上を図る。㉓	B			
渉外部	PTA 活動の充実を図る。	PTA 総会の出席率を高め、充実を図る。㉑	B	B	PTA 加入率のアップを図る PTA 活動の充実や本校の実状に即した会則等の検討をしていく
		本校の実状に即した PTA・後援会会則の改正、組織改編に向けた検討を行う。㉑	B		
		緑風祭への保護者の協力を促す。㉑	B		
		広報誌の年2回発行と内容の充実を図る。㉑	A		
		年次 PTA 活動の充実を図る。㉑	B		

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
一 年 次	基本的な生活習慣の確立と規範意識の育成	服装・髪型指導等を通して適正な制服の着こなしや身だしなみについての徹底を図るとともに、欠席・遅刻・早退の増加の防止を図り、基本的な生活習慣の確立に努める。 ⑦⑨	A	A	服装や言葉遣い、規範意識等を確立させるためには、普段からの声かけが重要である。清掃以外にも破損箇所等がみられたら放置せずに修繕等の対応が必要。
		年次集会時の講話等とおして、SNSや交通安全のマナー等、社会生活を送る上で必要な規範意識を育成するとともに、集団の中で自律的な行動がとれるよう働きかける。 ⑦⑨⑩	A		
		清掃活動とおして、生徒の自主的・自発的な活動を推進し、教室等の環境整備に努める。 ⑧⑫⑬	A		
	基礎学力の定着と早期の進路希望決定に向けての支援	家庭学習の習慣化を図り、自主的・積極的に授業に取り組む姿勢を育成する。 ①②⑥	B	B	家庭学習の習慣化には、保護者の協力が必要。「産社」については年次裁量の部分が多く「産社・総合委員会」を十分機能させるなど関係部署との連携が必要。
		義務教育段階の学習内容の確実な定着を図るための学び直しとして、朝学習を取り入れ、基礎学力を含めた学力向上を目指す。 ②④⑥	B		
	人間尊重の精神に基づく人間関係の構築	「産業社会と人間」の授業や科目・系列ガイダンスを通して、一人ひとりの適性や進路希望を活かす指導を図る。 ③⑬⑭⑮	A	A	道徳の授業に限らず平日頃から豊かな人間性の育成を意識することが大切。
		ホームルームや学校行事を利用して、自他の尊重に基づくクラス経営に努める。 ⑨⑪⑫⑬⑭	A		
		道徳の授業とおして、豊かな人間性の育成を図る。 ⑦⑧⑪	A		
	生徒理解及び家庭との連携	部活動への積極的参加を促し、継続する強い意志を育てる。 ⑭	A	A	「被害調査」では有効な情報が得られないため、日頃から生徒や家庭の状況に配慮しながら、教員間で情報を共有しておくことも必要。
		個別面談を実施し生徒理解を深め、家庭との連携を密にすることで、いじめや問題行動の早期発見・対応に努める。 ⑩⑫⑱	A		
ワークライフバランスのとれた職場環境を実現する。	生徒や家庭の状況に配慮しながら、教員間で情報を共有し、共通理解を図る。 ⑩⑳	A	B	年間行事予定の定期的見直しと多忙化の改良点を探る。	
二 年 次	進路実現のための支援	教職員が業務内容の精選等を行い、勤務時間の削減に向けて意識改革が進むよう働き方改革に係る校内での取組を推進する。 ㉓	B	B	
		民間企業の学習講座等を利用して、家庭学習を習慣化させるための機会を計画的に設け、基礎学力の定着と向上に努める。 ⑬⑮⑱	B	A	
		進学課外の実施、各種検定合格や資格取得に向けて積極的に取り組むよう働きかけ、目的意識を持って学ぶ姿勢を育てる。 ③④⑱	A		
	基本的な生活習慣と規範意識の確立	個別面談や進路ガイダンス等を通じて生徒理解を深め、自己の適性や能力を自覚させるとともに、希望進路の実現に向けて何をすべきかをしっかりと認識させる。 ⑬⑮	A	B	
		挨拶の励行や礼儀作法、指導時間を守ることを徹底し、欠席・遅刻・早退の防止を図る。 ⑦	B		
保護者や地域社会との連携	制服の着こなしや身だしなみに注意し、正しい着用について継続的な指導を行う。 ⑦	A	A	Classroom やスクリレを活用し、確実な連絡体制を整える。	
	保護者への細やかな対応と生徒の様子について共通理解を図り、いじめや問題行動等の未然防止、早期発見対応に努める。 ⑳	A			
	ホームページ等とおして、積極的な学校情報の発信に努める。 ⑳	A			
ワークライフバランスのとれた職場環境を実現する	探究的な学び等で、地域社会に積極的に参加し交流を深めるとともに、地域社会との連携・協働を推進する。 ⑳㉒	A	B		
三 年 次	生徒のニーズに合った指導による進路実現	ICTを活用し校務の効率化を図る。 ㉓	B	B	
		進路指導部との情報交換を密にし、生徒の進路決定に向けた指導を行う。 ⑬⑰	A	A	
		進路別ガイダンスや個別面談等を充実させ、進路に対する意識を向上させる。 ⑮	A		
	検定・資格取得、進学課外・模試、公務員講座等への積極的な参加を促す。 ③⑱	A			
	望ましい勤労観・職業観の醸成	社会人としてのマナーや礼儀作法等について継続的に指導をするとともに、自発的に行動する力を育成する。 ⑦⑮⑱	B	B	社会人としてのマナー等、意識態度の向上
		進路ガイダンス等を通して、望ましい勤労観・職業観の育成を図り、社会人として活躍するための素養を身につけさせる。 ⑬⑮	A		
	保護者や地域社会との連携	保護者への細やかな対応と生徒の様子について共通理解を図り、いじめや問題行動等の未然防止、早期発見対応に努める。 ⑪	A	B	
ホームページ等とおして、積極的な学校情報の発信に努める。 ⑳		B			
ワークライフバランスのとれた職場環境を目指す	ICTを利用して文書事務の簡略化に努める。 ㉓	B	B	業務負担の軽減	

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
国語科	基礎学力の定着	文章を読み書きすることや話すことを通して、生徒自身が主体的・対話的に言語に対する深い知識と関心、活用の仕方を身につけられるような授業に努める。 ①②⑤	B	A	文章を読み書きするうえでの、基礎的な決まりの定着に力を入れる。漢字の学習教材の見直しを行う。生徒が継続して取り組みやすい教材、指導を目指す。
		朝ドリルや漢字コンクールを実施することで、漢字学習に対する意欲・意識を高め、資格取得へとつなげる。 ③④	A		
		文章を書く機会を多く設定し、小論文等の実用的な文章を主体的に構築するための「書く能力」の向上に努める。 ③⑯	A		
	授業内容改善の推進	ICTを活用し、意見共有の可視化や考察の蓄積を踏まえた授業を展開し、多様な進路に対応できるように推進する。 ②⑤⑥⑯	B	B	ICT活用が可能な科目、科目内取り組みの検討。段階的にICTに慣れていけるような計画を行う。
		相互の授業参観や定期的な情報交換をすることで授業内容の検討と改善の機会を多く設け、生徒の実情を踏まえた読解力・表現力の育成を目指し、授業満足の評価平均3.5以上を目指す。 ②④⑥	A		
人間性を育む授業展開	意見の交換や他者の意見に耳を傾けることで、自分自身の考えを客観的に考え構築する力の育成を目指し、対話による深化の機会を意図的に授業内で設ける。 ②⑤	A	B	授業内や課外授業の中で、作文指導を継続していくことに加え、年次とも協力して作文の機会を増やしていく。	
	自分の考えを論理的に表現する力を育成するため、3年間を見通した作文・小論文指導やスピーチ・プレゼンテーションを計画し、進路達成率100%を目指す。 ②⑯⑰	B			
ワークライフバランスのとれた職場環境を実現する	ICTを活用した教材研究を推進し、教材情報の共有や成績管理の効率化を図る。 ⑳	B	B	ICTを活用した評価物の模索を図る。	
地歴公民科	学習意欲の向上と、自ら学び考える力の育成	主体的・対話的で深い学びを実現できる授業内容を研究し、わかる授業の実現と生徒の主体的に学習に取り組む態度の向上に努める。 ①	A	A	基本的な知識の定着や学習習慣の確立を目指し、学習意欲の向上に努めていくことが必要である。
		考えをまとめ、発表する、他者に説明することをとおして、思考・判断・表現の育成を図る。 ②	B		
		ボランティア活動や探求学習で、地域社会の行事に積極的に参加し、地域や社会との連携・協働を推進する。 ㉒	A		
授業内容改善の推進	ICTを積極的に活用し、時事問題を含めた発展的な学習を取り入れる。生徒による授業評価における、授業満足の評価平均3.5以上を目指す。 ⑤⑥	A	B	教科内での相互授業参観の機会を増やしていく。	
	知識だけでなく、言語活動の充実を重視する授業を展開するために相互授業参観の機会を設け研修を行う。 ①②	B			
進路実現に向けた知識の構築	ICTを活用することで、主体的に必要な情報を手に入れる力を養うとともに、それらの情報をもとに対話的で深い学びを実現できるように努める。 ⑤	A	B	受験で地歴公民の科目を利用する者が少なく、個別に対応を続けている。	
		職員間の情報共有をとおして、個々の進路希望に即した授業を行い、個別指導の充実を図る。 ③⑪			B
		系列での学習を活かしながら、進学・就職を意識した授業内容の精選に努める。 ⑰			B
社会性を育む授業展開	挨拶・身だしなみを整える等の授業規律確保のための指導を徹底する。 ⑦	A	A	グループ学習やディスカッション等の活動を増やしていくことに努めていく。	
	グループ学習やディスカッション等の活動を通して、コミュニケーション力の向上に努める。 ②	B			
	各年次段階に応じた主権者教育を行い、有権者として求められる政治的教養を育む。 ⑩	B			
	「公共」と道徳教育をとおして、社会規範を育む。 ⑨	A			
小テストや授業の振り返りをとおして、適切な学習指導を行う。 ⑪	A				
ワークライフバランスのとれた職場環境を実現する	ICTを活用した教材研究を推進し、教材情報の共有や成績管理の効率化を図る。 ⑤⑳	B	B	ICT活用を推進していく。	

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
数	基礎学力の定着を図る。	基礎的な副教材や参考書を活用して基礎学力の定着に努め、比・割合等、基本的な計算ができるように指導する。生徒による授業評価における、授業満足度の評価平均について3.5以上を目指す。①②⑥	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 考査前の課題、補講 ・ 家庭学習の習慣化
		考査前に3回程度、小テストや課題を実施し、基本的な問題を解けるようにするとともに家庭学習の習慣の定着を図る。①④	B		
		検定試験の積極的な受検を促し、数学検定準2級合格者をだす。また、検定受験者への個別指導も行う。③	A		
学	授業改善を推進し、数学的活動をとおして、数学ができたという実感がもてる授業を展開する。	相互授業参観を活用し、授業の改善点の意見交換をする。また、他教科の参考になる部分を積極的に取り入れ指導力向上に努める。①⑥	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICT 機器を必要に応じて活用し、生徒の理解を促す。 ・ 教科内外の相互授業参観
		主体的・対話的で深い学びを実現できるよう、グループ学習や発表等を取り入れた授業作りを行う。授業理解度アンケートを行い、授業改善に努め、授業満足の評価平均3.5以上を目指す。①②⑥	A		
		ICT 機材を活用することにより、生徒の興味・関心を高める。また、グラフや関数を具体的に想像できるよう援助する。①②⑤	B		
科	進路実現に向けた学力の養成を図る。	進学・就職への対応及びその他検定取得のための課外授業を積極的に実施する。③	A	A	数学検定受検を促す。
		個々人の進路希望に応じた個別指導を充実させる。③⑬	B		
	働き方改革に関する目標	外部専門家(ベネッセなどの民間企業など)を活用して、専門教育の充実を図るとともに、業務負担の軽減を図る。⑭	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題や小テスト等におけるICTの活用 ・ 教材の共有
		ICTを活用した教材研究を推進し、教材情報の共有や成績管理の効率化を図る。⑤⑭	A		
理	基礎学力の定着を図る。	ワークブックやプリントを積極的に活用し、生徒の基礎学力の定着を図る。②	A	A	基礎学力定着の為の学習指導を継続的に行う
		授業の単元ごとに小テストや確認テストを実施する。①	A		
	身の回りの事物・現象を自然科学的に考察し探究する力を育成することを目指す。	生徒が身の回りの事物や自然現象に興味・関心を持てるよう、ICT機材を工夫して活用する。①②⑤	A	A	実験における事故・ケガ防止の安全対策を継続的に行う。
		生徒が主体的・対話的に実験・観察を行うことができるよう、各単元の目標に則した探究的な実験・観察を計画、実施する。また生徒の実態に応じた探究活動重視のワークシートを作成する。①③	B		
		器具や薬品の取り扱いをきちんと指導し、安全な探究活動を実施できるよう配慮する。③	A		
	生徒の「わかる」を引き出すため教員の指導力向上と授業改善に努める。	相互に授業参観をおこない授業における改善点を話し合い、個々の指導力の向上や教科内容の充実に努め、授業満足度の評価平均3.5以上を目指す。②⑥	B	A	小テストの結果より、苦手な部分の把握を行い、授業計画等に反映させ適切な指導を行う。
		少人数授業の特性を活かし、個に応じた適切な指導を行う。②④	A		
	小テストの結果を用いて形成的評価を行い、その評価をフィードバックすることにより適切な学習指導を行う。①④	A			
	働き方改革に関する目標	ICTを活用した教材研究を推進し、教材情報の共有や成績管理の効率化を図る。⑭	B	B	教材情報の共有や成績管理の効率化を行う。

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
保健体育科	基礎体力の向上を図る。	授業時の運動量を確保する。①	B	A	ハード面での制限がかかる場合(雨天時やコート数の少ない種目)の運動量確保
		体力を高めるための多様な運動を実施する。①②	A		
		持久走大会を実施し、全身持久力の向上に努める。⑬	A		
	運動中の事故防止に努める。	体育施設・用具の安全管理を徹底し、運動中の事故を未然に防ぐ。⑦	A	A	用具の使用方法や注意点の事前の声掛けで引き続き事故防止に努める。
		体育館・グラウンドの危険箇所を把握し、改善する。⑨	A		
		運動中の事故を防ぐため、健康観察と運動観察を徹底し、事故の未然防止に努める。⑨	A		
	教科内での研修を充実させ、授業改善を推進する。	定期的に教科会を開き、積極的に情報を交換し、共通理解のもとに授業を展開して授業満足の評価平均3.5以上を目指す。①②⑥	B	B	教員間の情報交換と苦手得意分野の共有により、運動指導の改善と評価の適正化を次年度も継続していく。
		実技指導者講習会等で得た知識や情報を教科内で共有する①	B		
		観点別学習状況評価による評価基準を確立し、それに基づいた評価を行うことで、講座間の評価格差を未然に防止し、評価の適正化に努める。①	A		
	個の能力に応じた指導を行う。	体力テストの結果を用い、個人の能力に応じた指導を行う。②	B	B	体育におけるICTの活用方法は体育館の通信環境含めて継続的な課題
		ICTを活用し生徒一人ひとりの運動能力に応じた課題を発見させ、その克服に努めさせる。②⑤	C		
	集団行動の技能を身につけさせる。	集合・整列・挨拶等、集団行動の指導を継続的に行う。⑥	A	A	意図も理解させながら、継続し指導にあたる。
体育的行事のさらなる充実に努める	校内順位発表等により、体力テストや持久走大会等の行事に取り組む意識の高揚を図る。⑦	A	A	体力テスト・持久走大会等継続して実施。	
健康な生活を実践するための知識を身につけさせる。	たばこやアルコール・薬物が人体に及ぼす影響について正しい知識を身に付けさせる。⑧⑨	B	B	各教員がICTを積極的に活用し、アクティブラーニング等で生徒の意欲を高め、理解しやすい授業の工夫を継続していく。	
	性教育に重点的に取り組み、多様性への理解を深めること・正しい行動選択ができる能力を養う。⑨	B			
	健康と運動の関係を理解させることにより、生涯スポーツにつなげる。①⑪	B			
	救命救急講習を通して、救急時の対応・処置の仕方を学び、身に付けさせる。①⑦⑨	A			
がん教育を行い、規則正しい生活習慣を身につけさせる。⑩	B				
ワークライフバランスのとれた職場環境を実現する。	学校行事や活動の精選、外部専門家による指導を活用し、業務量の調整とともに教育活動の質の向上を図る。②⑬⑳	B	B	継続して精査していく	
芸術科	基礎学力の向上と芸術の諸能力の伸長	生徒一人ひとりに合わせた個別指導を行い、作品制作やその発表を通して、個々に応じた創造性の育成、芸術的な表現力の向上を目指す。①②	A	A	継続して個々に応じた芸術的な表現の育成を目指す。
	自ら表現する喜びを実感する中での技術の習得	各分野の基礎的な指導を通して芸術性を把握させ、授業の中での演奏・合唱・作品制作など、積極的に取り入れる。個々の実践と実習をすることで、表現する楽しさを実感させ、技術の習得を目指す。①	A	A	演奏・合唱・作品など発表の場を設けることを目指す。
	作品鑑賞を通じた鑑賞力と発表力の育成	作品鑑賞を通して芸術性の発見につなげ、個々の感性の育成を目指す。また、鑑賞会などを通して生徒の発表力の育成を目指す。①②	B	B	工夫した相互鑑賞会を積極的に行う。
	授業内容改善の促進	ICTを積極的に活用することで、表現の習得・理解に努め、授業満足度の評価平均について3.5以上を目指す。⑤⑥	B	B	ICTを活用できる環境の整備に努める。
	ワークライフバランスのとれた職場環境の実現	ICTを活用した教材研究を推進し、教材情報の共有や成績管理の効率化を図る。⑳	B	B	ICTを活用した成績管理システムの効率化に努める。

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
英語科	基礎学力の向上を図る。コミュニケーション能力の育成を図る。	基礎的・基本的な単語・文法を中心とした学習内容について学び直し、トレーニング教材を活用し、不十分なところを補うとともに学習内容の確実な定着を図る。②④	A	A	進学・検定に向けた基礎学力の不足を補う指導方法を検討する。
		ノートや配布プリントを定期的に点検し、定期考査及び家庭学習に効果的に用いることができるように指導する。②④	A		
		個別指導を柔軟かつ適正に行い、多様な生徒の学力の向上を図る。②	B		
		ALT とのティーム・ティーチングをとおして、外国人とのコミュニケーション能力の育成を図る。②	A		
		チャイム始業や挨拶・服装指導により授業規律を確保する。①	A		
	積極的に学習に取り組む姿勢を養う。	授業において教員は極力英語を使用し、生徒にもできるだけ英語で発話させるなど、積極的に英語でコミュニケーションを図る態度を養う。①②	B	B	生徒の英語の発話場面を増やす。ICT の効果的な活用方法を検討する。
		ICT 機器やDVD 等の視聴覚教材を用いた授業により、生徒の興味・関心を喚起するよう努める。①⑤	B		
		言語活動を通して、生徒の主体的な学習活動を促す。グループワークやペアワークを活用し、アクティブラーニングに積極的に取り組む。①②	B		
	進路実現に向けた学力の育成を図る。	進学課外や英検対策課外を行うなど、生徒の発展的な学習の機会を確保し、多様な進路志望に応じた指導に努める。③	A	A	英検受検者の増加
		授業内容改善の推進	各種研修会に積極的に参加するように努め、その内容を教科内で共有する。①②	B	B
	相互授業参観や公開授業を実施し、教員間の情報交換や改善点発見の機会を設ける。①②	B			
	ICT 機器を積極的に活用すると共に、言語活動を活性化させるための適切な場面設定を行う。生徒による授業評価における、授業満足の評価平均 3.5 以上を目指す。⑤⑥	B			
ワークライフバランスのとれた職場環境を実現する。	外部専門家(部活動指導員やベネッセなどの民間企業など)を活用して、専門教育の充実を図るとともに、業務負担の軽減を図る。③	B	B	教材情報を共有し、業務負担を軽減する。	
	ICT を活用した教材研究を推進し、教材情報の共有や成績管理の効率化を図る。③	B			
家庭科	基礎学力の定着と学習意欲の向上を図る。	目標や授業計画・評価基準を明確にし、わかりやすい授業を展開する。①②	A	A	よりわかりやすい指導、適した ITC の利用をし、学力、学習意欲の向上を図ることができるようにする。
		教科内で指導方法を共有し、授業展開についての工夫・改善を行う。①	B		
		ICT を活用し個に応じた柔軟かつ多様な指導を行い、家庭学習のふりかえりをととし、学力・技術の向上を図る。②③⑤	B		
		検定試験を積極的に活用し、学習意欲の向上を図るとともに、実習の事前・事後指導、課外等を行い、進路実現に向け指導を充実させる。③④⑯	A		
		「主体的・対話的で深い学び」を意識し、系列・科目選択や進路実現に向け、各年次との連携を図り、個々の生徒の希望や適性に合った選択ができるよう努める。⑯⑰⑱	A		
	授業内容改善の促進を図る。	小テストや授業のふりかえりをととして、学力の向上・技術の向上を図り、適切な評価につながる学習指導を行う。②③⑤	B	B	引き続き、個に寄り添う指導をし、目的の達成につながるよう促す。
		生徒間の相互評価や言語活動を積極的に取り入れ、生徒による授業評価における、授業満足度の評価平均について 3.5 以上を目指す。⑤⑥	B		
	基本的な生活習慣の確立と規範意識や豊かな心の育成をする。	日々の授業や実習をととして、自主・自立の精神を育み、相手の立場に立って考え、行動することができる人間の育成を図る。⑦⑧⑨⑱	A	A	地域への関心、貢献、道徳心を培い、自ら周りへの配慮ができるようにする。
		毎授業開始時に服装頭髪指導、生活指導、礼法指導を行い、正しい言葉使い等、規範意識の高揚を図る。⑦⑨⑱	B		
		施設・設備・用具を整え、利用マナーの向上を図る。⑧⑪	A		
地域への関心を深め、郷土に対する愛情を育む。⑫		A			
校外実習等の充実	校外実習施設や関連機関での体験・実習等様々な経験をとおして、望ましい職業観の育成を図る。⑰	A	A	校外実習をととして、進路への関連付けや視野を広げることができるようにする。	
ワークライフバランスのとれた職場環境を実現する。	外部専門家を活用して、専門教育の充実を図るとともに、業務負担の軽減を図る。⑳㉑	A	A	多くの分野で取り入れていきたい。	

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題		
情報	情報に関する知識と技術を習得させる。	情報に関する基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせる。 教科書の内容や身近な例をとおして、ICT等での情報の検索方法や扱い方について十分な指導を行う。 ① ①⑤	A	A	個人のタブレット端末の利用を積極的に行う。 Classroomを活用する。 継続的な指導をする。		
	基礎的・基本的学力の向上	授業の中で、知識と技術(情報リテラシー)の重要性・必要性を理解させる。 情報機器の正しい使用方法を理解させ、情報モラルを身に付けさせる。 プレゼンテーションをおこなうことによって、自己表現能力を伸ばす。 ① ① ②	A A B	A			
	報 科	教員の資質の向上と授業の改善	わかりやすい授業の展開を心がけ、常に教材研究に努める。 教科書・問題集・補助プリントを利用して反復練習指導を行う。 学習指導における問題提起を行い、研究協議を十分に行う。 教科会をとおし、指導や観点別評価の在り方等について話し合い、共通理解に努める。 相互授業見学等を行い、指導力の向上を図り、授業満足の評価平均3.5以上を目指す。 ② ① ③ ① ①⑥	A A B A A	A	担当者のスキルアップに努める。	
ワークライフバランスのとれた職場環境を実現する。			ICTを活用したペーパーレス化を推進し、文書事務の簡略化に努める。 学校行事の精選を行い、業務量の調整とともに教育活動の質の向上を図る。 ③ ③	B B	B		
工 業 科			自動車整備及び機械・電気・電子・情報技術の分野に関する知識と技術を身に付けさせる。	基本的生活習慣や、安全に作業する態度を身に付けさせる。 わかりやすい授業の展開を心がけ、考える力、表現方法を身に付ける。 教科書・プリント等を利用して理論の学習をすると共に、実技を身に付ける訓練を繰り返行い学ぶ楽しさを味わう。 ①⑦⑪ ①⑥ ②⑥ ②③	A A B A		A
				ICTなどを利用する現代の指導方法の進歩に合わせた指導や従来の工業技術として培われて継続されている技術の指導を複合させながら、教員の指導力及び資質の向上を目指す。	最先端施設の見学及び様々な研修・実習を行い、実社会の技術進歩を取り込むことで、指導力の向上と、授業満足の評価平均3.5以上を目指す。 ネットワークを利用した教育の充実、平等公平で意欲が向上するような教育の確立に取り組む。 ⑥⑱ ④⑩⑰⑳		A A
		教科会を通して、指導や評価のあり方などについて検討し、共通理解を図る。 ②③			A	A	
業 科	ワークライフバランスのとれた職場環境を実現する。	ワークフローを活用したペーパーレス化を推進し、文書事務の簡略化に努める。 ICTを活用した教材研究を推進し、教材情報の共有や成績管理の効率化を図る。 ⑳ ⑳	B A	A			
	商 業 科	商業に関する知識と技術を習得させる。	チャイム to チャイムの授業を心がけ、毎授業時間の初めに身だしなみチェックを行い、職業人としての規範意識を身に付けさせる。 大学見学及び模擬授業を実施し、商業に関する知識を深めさせ、勤労観・職業観の育成を図る。 夏季休業や冬季休業に検定対策の課題を課し、家庭学習の充実を図る。 ① ⑱ ④	A A A	A	習熟度別学習の充実	
基礎的・基本的学力の向上			わかりやすい授業を心掛け、個に応じた指導を展開する。 教科書・問題集・補助プリントを利用して反復指導を行い、検定試験に対応した指導を展開する。 ② ①	A A	A		
			検定への取組	授業の中で生徒に資格取得の必要性・重要性を説明し理解させる。 全員受験・全員合格を目指し、授業・課外等で指導を行う。 検定に関わる授業の担当者同士で共通理解を図りながら指導にあたる。 新しい検定基準に対応するための指導方法を検討する。 ③ ① ③ ③	A A A B		A
教員の資質向上と授業の改善		通常の授業時間における学習指導や、検定合格に向けた取組を通して見いだされた課題や問題点について、その克服のための研究協議を十分に行う。 相互授業見学等を行い、指導力の向上を図り、授業満足の評価平均3.5以上を目指す。 教科会を通して、指導や観点別評価の在り方について話し合い、共通理解を図る。 ① ①⑥ ①		B A A	A		
		ワークライフバランスのとれた職場環境を実現する。	ICTを活用したペーパーレス化を推進し、文書事務の簡略化に努める。 学校行事の精選を行い、業務量の調整とともに教育活動の質の向上を図る。 ⑳ ⑳	A A	A	教科情報との関わり方	

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題			
福祉科	基礎学力の向上と福祉に関する専門知識・技術の定着	個に応じたわかりやすい授業を展開するために、単元ごとの小テストや実技テストなどを行い、定期的に個々の学習定着度の把握に努める。 ①②	A	A				
		教科内での連携や生徒の情報交換を密にするとともに、相互授業参観を積極的に行う。 ①⑩	A					
		自分の考えを文章にまとめたり発表したりする機会を授業で必ず設けるほか、ICTを活用して施設実習後に体験発表会を行うなどし、自己表現能力を向上させるよう努める。 ②⑤	B					
	授業内容改善の促進	小テストや授業のふりかえりをとおして、学力の向上・技術の向上を図り、適切な評価につながる学習指導を行う。 ②③⑤	A	A				
		生徒間の相互評価や言語活動を積極的に取り入れ、生徒による授業評価における、授業満足度の評価平均について3.5以上を目指す。 ⑤⑥	A					
	介護職を目指す者としての意識の向上	毎授業開始時に服装や礼法の指導を行い、基本的な生活習慣やマナーを定着させる。 ⑥	B	B		ICTの活用について環境を整えること。生徒のタブレット等の活用頻度を増やしたい。また、卒業後に福祉系の進路に進めるような支援も強化していきたい。		
		自ら考えて行動する姿勢や奉仕の精神を育てるような働きかけを積極的に行い、介護職を目指すうえで必要な素養を高める。 ⑦⑰	A					
		介護福祉士国家試験の過去問題やICT等を活用し、福祉専門職についての理解を深め、卒業後もさらなるステップアップができるような取組みを積極的に行う。 ③⑤⑰	B					
	校外実習等の充実	実習施設との打ち合わせを十分に行うとともに、目的意識と責任感をもって実習に臨めるように事前指導を充実させる。 ⑦⑱⑲⑳	A	B			実習先の施設の種類を増やすことができるよう、施設との連携を深めたい。	
		在宅福祉・障害者福祉に関する施設の見学・体験実習を取り入れ、幅広く福祉を学ぶ機会を提供する。 ⑦⑱	B					
	ワークライフバランスのとれた職場環境を実現する。	ICTを活用したペーパーレス化を推進し、文書事務の簡略化に努める。 ㉓㉔	B	B				文書やプリントはこれまでと変わらず使用しているため、少しずつ減らす努力をしていきたい。
		完全退勤時間および定時退勤日を設定する。 ㉓㉔	B					
ICTを活用した教材研究を推進し、教材情報の共有や成績管理の効率化を図る。 ㉓㉔		B						

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
産業社会と人間	自己を理解する。	授業の中で自分自身を見つめ、自身の持つ可能性を追求する。 ②	A	A	自己理解を深めるプログラムの企画立案。
	望ましい勤労観・職業観を育成する。	外部講師の講演を聴くことにより、将来の方向性について考えるとともに、高校生としての在り方・生き方を意識させる。 ③	A	A	外部講師の講演やガイダンス等を通じて高校卒業後の進路について生徒に有用な話をしてもらうようにする。
		進路ガイダンスを通して、自分の将来について見つめ直す。 ③	A		
		社会における自己の在り方・生き方について考え、寛容性、協調性など社会人に必要な力を養う。 ⑩	A		
	自己実現のための進路選択をする。	適性検査の結果を踏まえ、自分の適性を客観的に理解させるとともに、様々な仕事や学問の分野についても理解させる。 ④	B	B	ガイダンス等を通して、様々な仕事や学問の分野についても理解させ、それをライフプランの完成に結びつける。
		ライフプランの作成により、各自の進路目標に沿った科目選択が出来るよう支援する。また発表をとおして、将来の進路について真剣に考えさせる。 ①②	B		
	ワークライフバランスのとれた職場環境を実現する。	外部専門家(部活動指導員やベネッセなどの民間企業など)を活用して、専門教育の充実を図るとともに業務負担の軽減を図る。 ㉓	B	B	業務負担軽減が実感できるようにする。タブレット端末の早期からの利活用促進。

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
総合的な探究の時間 一年次 (道徳含む)	個性の伸長に努め、価値ある人生を追求する。	基本的な生活習慣を確立し、心身の調和のとれた生活を身に付けさせる。 ⑥⑫	A	A	日頃からの継続した指導が重要である。
		人生の理想を求め、希望と勇気を持って積極的に生き抜く強い意志を養わせる。 ⑦⑬	B		
	他の人々の立場を尊重し、感謝と思いやりの心を育てる。	礼儀の意義を理解させ、TPOに応じた適切な言動をとれるようにする。 ⑥⑧	A	B	挨拶の大切さを伝えるなど、人間関係構築のために相手の立場の尊重が必要である。
		他の人々の立場を尊重し、感謝と思いやりの心を持てるようにする。また、真の友情を育み、信頼し合い、励まし合う心を育てる。 ⑦⑩	B		
	生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の命を尊重する。	自然を愛護し、美しいものに感動できる豊かな心を育てる。 ⑦	B	A	日頃から「生命の尊さ」を意識した指導が重要である。
		いのちの大切さを自覚させ、希望を持ってよりよく生きていこうとする意欲を育てる。 ⑦⑩	A		
	社会の一員として自覚と責任を持ち、周囲の人々に尊敬と感謝の念を深め、信頼関係及び良い校風を築く。	集団の意義について理解を深めさせ、自己の役割と責任を考えさせる。 ⑬⑭	A	A	社会生活における規範意識の向上に努めるために、外部講師の活用も含め、年間を通じて継続的に指導が必要。
		学校生活における規則の意義を理解させ、社会の秩序と規則の順守意識を高めさせる。 ⑧	A		
		正義を重んじ、差別や偏見のない社会を目指す。 ⑦⑧	A		
		家族の大切さを理解させ、家族の一員としての自覚と責任を持たせる。 ⑦	A		
ワークライフバランスのとれた職場環境を実現する。	学校に関わる人々が、互いに信頼関係を持ち、尊敬と感謝の念を深める態度を育てる。 ⑦⑫	A	B	B	業務負担軽減が実感できるようにする。タブレット端末の早期からの利活用促進。
総合的な探究の時間 二年次	自己の生き方について考察し、進路実現のための学習に取り組む。	進路ガイダンスや進路学習をとおして、自己の進路についての意識づけを図るとともに、進路実現に向けて自己の適性を知り、進路の見通しを立てられるよう支援する。 ③⑮⑰	A	A	
	自ら学び考え、主体的な行動ができる能力や資質を養う。	学校行事等とおして、コミュニケーション能力を高めるとともに、自ら考え適切な判断や行動をし、主体的に問題解決する能力や資質を養う。 ②⑥	B	B	
	社会の中での自分の存在を認識し、社会人となるための意識を養う。	文化祭や修学旅行等の学校行事をとおして、自らの役割を自覚して積極的に行動する力を養うとともに、他と協調して行動する姿勢を育てる。 ⑦⑫⑬	A	A	各行事に向け、準備や事前学習に必要な時間を確保する。
		外部講師による講演会や職場見学などとおして、望ましい勤労観・職業観を育てるとともに、社会人として必要な資質を養う。 ⑧⑰	A		
ワークライフバランスのとれた職場環境を実現する。	民間企業や外部講師を活用して教育の質と充実を図るとともに、業務負担の軽減を図る。 ⑫	A	A	A	関係各所との打ち合わせ時間を確保する。
総合的な探究の時間 三年次	進路実現に向けての考えを深め、必要なスキルを高める。	進路テキストや作文・面接練習等を行い、進路実現に必要な力を育てる。また、進路選択に必要な適切な情報を収集する力を身に付けさせる。 ⑮⑰	A	A	
		外部業者と連携して進路別学習や講演を行い、より具体的・積極的に進路活動に取り組ませる。 ⑱	A		
	社会人として必要な知識を身に付ける	講演会の機会を設け、租税教室や年金教室、スーツ着こなせセミナー等を行い、社会人として必要な基礎知識を学び、生活を自律的に管理し、地域や社会に資することができる意識・態度の醸成を図る。 ⑱	A	A	A

※評価基準： A：達成できている B：概ね達成できている C：あまり達成できていない D：不十分である